

## DEN-UP導入によるDX推進で、 業務効率約30%向上と創業以来の最高売上を達成。



### 株式会社宮城電気サービス 様 [宮城県 東松島市]

代表取締役 齋藤 貴俊 様 工事リーダー 山内 洋一 様  
専務取締役 齋藤 好伸 様 工事リーダー 松本 涼 様

左から齋藤貴俊様、齋藤好伸様、松本涼様、山内洋一様

#### 会社概要

株式会社宮城電気サービス [所在地]宮城県東松島市 [従業員数]16名  
[主な業務内容]電気設備工事、空調設備工事、給排水衛生の設備工事など。民間工事が8割を占め、東北6県を中心に地元密着で事業を展開。

#### DEN-UP 導入前

- 社内でのDXツールとのマッチング、ランニングコスト、業務効率化の定着方法に課題を感じていた
- 作業日報は1枚の紙に複数人が記入する形式で、順番待ちが発生し、長時間待つこともあった
- 1案件ごとに50枚～100枚の資料を作成していた。そのため毎月のコピー代が3万円～4万円と高額だった



#### DEN-UP 導入後

- 全体的な効率が約30%向上
- 顧客情報の一元管理の達成。ペーパーレス化によりコピー代は1/4に減少し、資料作成の手間も削減
- 全従業員の年間平均残業時間は1年間を通して15.5時間に大幅減少したにもかかわらず、今期は創業以来、最高の売上を達成

### 「司令塔」を立て全員が同じ方向を向いて取り組み

#### —どのようなお悩みがあり、DEN-UPを導入されたのですか？

齋藤社長様：ここ5年ほど、資料を取り寄せたりセミナーに参加したりして、DX化の検討を重ねてきました。ランニングコストといった費用面や、どのように社内に浸透させるかという点で、ずっと迷いがありました。

長年続けていた作業日報の運用やスケジュール管理にも課題がありました。社員が5人～6人だった頃は問題なかったのですが、10人を超えてくると、1枚の紙に順番に記入していくため、最後の方の人が書く頃には夜の8時や9時、時には10時になってしまうこともあり、「働き方改革」というキーワードが出始めたタイミングで、これは変えなければいけないと強く感じたのが、導入の大きなきっかけです。

齋藤専務様：私がDEN-UPを実際に見て触って、当社の作業の流れに合っているか確認しました。最終的に私たちの現状にマッチすると確信し、社長に導入を進言しました。

#### —社内にいち早く浸透させたコツを教えてください。

齋藤社長様：「やる」と決めたら全員が同じ方向を向いて取り組むこと、さらにツールに任せきりにせず、どのように使っていきたいかイメージし「司令塔」となる人物が中心となって動かすことが必要だと考えました。

齋藤専務様：私が「司令塔」として積極的にツールを運用しました。案件作成から完了報告まで全て管理し、社員への情報共有も素早く行っていきました。導入してすぐにアプリの操作を覚えた社員が、他の社員に教えることで、社内で「教え合う」文化が生まれ、コミュニケーションがさらに活発化したと思います。全員がDEN-UPを使えるように、作業時間を少し早く切り上げてツールに触る時間を増やし、社内研修をしたことも、浸透を早めるうえで効果的だったと思います。

山内様：社長から導入の話があった時、特に抵抗はありませんでした。慣れるまでは不安もありましたが、実際に使ってみると難しくなく、結果的に導入して良かったと思っています。

松本様：正直なところ不安はありました。実際に触ってみると、若い社員はすぐに覚える一方で、私は使いこなすまでに時間がかかりました。しかし、非常に難しいと感じたり、面倒くさいと思うこともありませんでした。今後どのように活用していくのかという漠然とした不安はありましたが、今ではスムーズに使えて非常に効率が良くなったので、良かったです。

### 業務効率が約30%向上！コピー代も1/4に

#### —KANNAの導入前後で、どのような変化がありましたか？



【現場写真】スマホで写真を撮ってそのまま取り込めるので狭い場所での撮影も楽々

齋藤社長様：導入前は、案件ごとに50～100枚の資料を全て私が作成していました。しかしボリュームが多いのと業務過多で資料の抜け漏れなどもあり、非常に大変でした。導入後はこうしたアナログな作業がほぼなくなり、毎月のコピー代も約1/4に減少しました。以前は月3万円～4万円かかっていたコピー代が、現在は5千円～1万円程度です。そして導入後は、業務効率が約30%向上しました。紙の資料を作ったり提出したりする機会が減り、打ち合わせ時間も短縮され、社員が休みを取れる時間も増えました。残業も減少し、昨年の年間平均残業時間は15.5時間でした。残業は減ったのに今期(10月決算)は創業以来最高の売上を達成する見込みです。

山内様：手書きの日報がなくなり、スマホで入力できるようになったことで、一度会社に戻ることなく現場で対応できるようになりました。日報の順番待ちで30分～40分待つこともなくなったのは大きな変化です。空き時間に進捗を書いたり、現場で資料を確認したりできるようになったため、大幅に効率が上がりました。

### 社員の業務状況が一目瞭然。

#### スケジュールも案件管理もスムーズに

#### —情報共有や案件管理はどうされていますか？

齋藤社長様：KANNAのカレンダー機能は、社員のスケジュール調整に役立っています。専務が毎週末に次の1週間分のスケジュールを割り振り、各担当者が内容を確認できるようにしています。誰が何時から何時まで空いているのかがパッと見て分かるようになり、管理が格段に楽になりました。これにより、急なスポット案件が入った際にも、すぐに担当者を割り振ることができます。

齋藤専務様：機能は、ほぼ全て活用しています。案件を作り担当者には写真を見せながら作業を指示します。作業完了後には何時から何時まで作業したか、どのように完了したかなど、報告を全て入力してもらっています。

松本様：基本的に工事担当者全員がKANNAを活用しています。施工管理の基本的な情報は専務が入力し、

### DEN-UPの特長

- 電気工事会社向けだから使いやすい！
- 自社の業務に合わせてツールを組み合わせ導入可能
- 各ツールで登録された案件を紐づけて一元管理
- お手ごろな価格で導入しやすい！



DEN-UPについて詳しくはこちら

担当はその情報をもとに作業内容を確認します。施工中や完了後の写真も、現場のスタッフがKANNAにアップロードしています。施工前には、アップした写真を見ながら、状況や施工場所を確認し、作業を開始します。作業中や完了後も写真を撮って取り込み、チャットで専務に完了報告をしています。

### 1,000枚近い写真管理も 操作に迷うことなく楽々

#### —PhotoManagerの導入前後で、どのような変化がありましたか？

松本様：去年、入札工事で初めて活用しました。最も大きな変化は、黒板を手で書く作業が一切なくなり、全てスマホで管理できるようになったことです。特に狭い場所での撮影が多い工事現場では、黒板が少し切れてしまったりすることもあったのですが、PhotoManagerのおかげでそんな心配はなくなりました。1,000枚近い写真を撮ったのですが、フォルダで分けて管理できるなど便利な機能が多く、迷うことなく使いこなせました。大規模工事では非常に役立ちました。

#### —全国の電気工事会社の皆様へ、メッセージをお願いします。

齋藤社長様：DXには様々なツールがありますが、「これだ」と決めたら、迷わず導入するべきだと思います。迷うことは大切ですが、決断して実行すれば、必ず前に進めます。当社の場合はDEN-UPを導入したことで、大幅な効率化を実現しました。今後もさらに効率を上げていきたいと考えています。

今後は、これまで当社で扱ってきた案件すべてをKANNAに入力していく計画です。単なるデータ保存ではなく、過去の案件を確認する際の検索時間の短縮や、10年を経たお客様へのアフターフォローのツールとしても活用したいと考えています。さらに当社の施工方法などを社員に教えるための学習ツールとしても活用したいと思っています。全国の電気工事会社の皆様も、ぜひDEN-UPの導入を検討いただければと思います。